

第5部 調査結果の分析 - 回答者の固定的役割分担意識等について

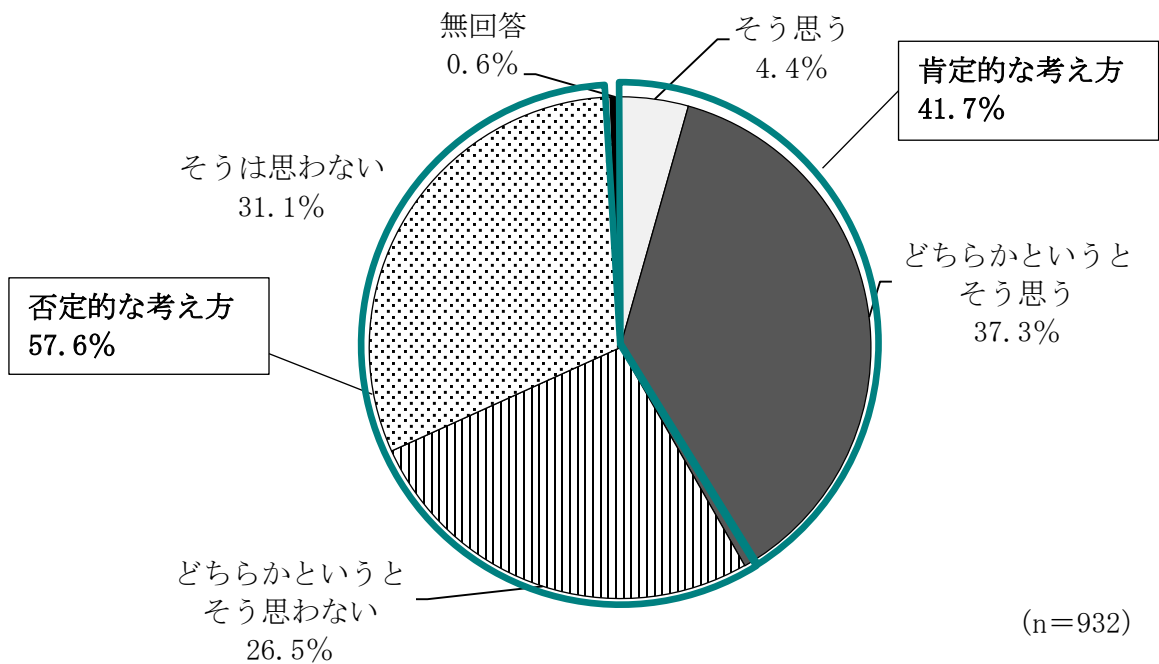
- 1 「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考えに対する回答者自身の考え(問27)
- 回答者全員(932人)に、「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考え方についてたずねたところ、「そうは思わない」が31.1%、「どちらかというともう一方は思わない」が26.5%であり、否定的な考え方*（「そうは思わない」と「どちらかというともう一方は思わない」の合計）が57.6%と、半数を超えた。

※以後、

肯定的な考え方＝「そう思う」と「どちらかというともう一方は思う」の合計

否定的な考え方＝「そうは思わない」と「どちらかというともう一方は思わない」の合計をいう。

図表27 「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考えに対する回答者自身の考え

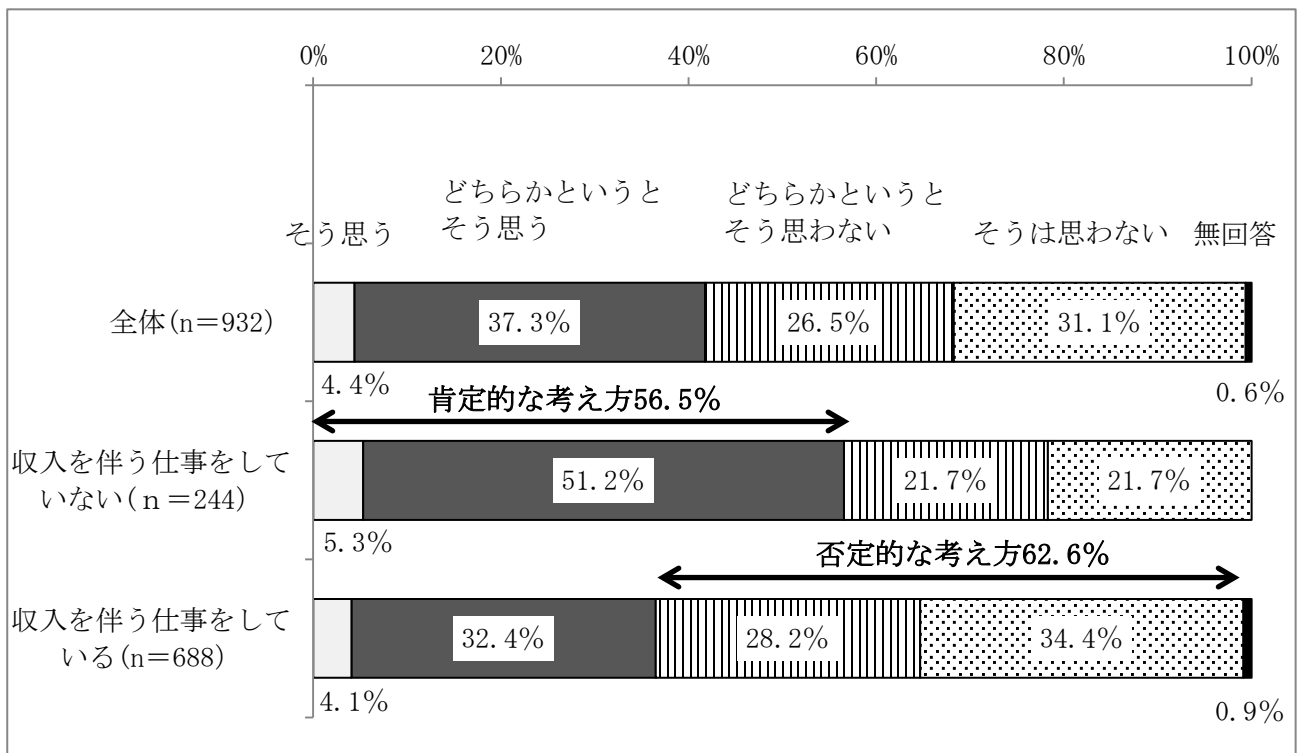


(1) 現在の就業状況別にみた「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考えに対する回答者自身の考え

現在の就業状況別にみると、「収入を伴う仕事をしていない」人（244人）では、肯定的な考え方が56.5%と、半数を超えた。

一方、「収入を伴う仕事をしている」人（688人）では、否定的な考え方が62.6%と、6割を超え、収入を伴う仕事をしている人としていない人とで、考えに差がみられた。

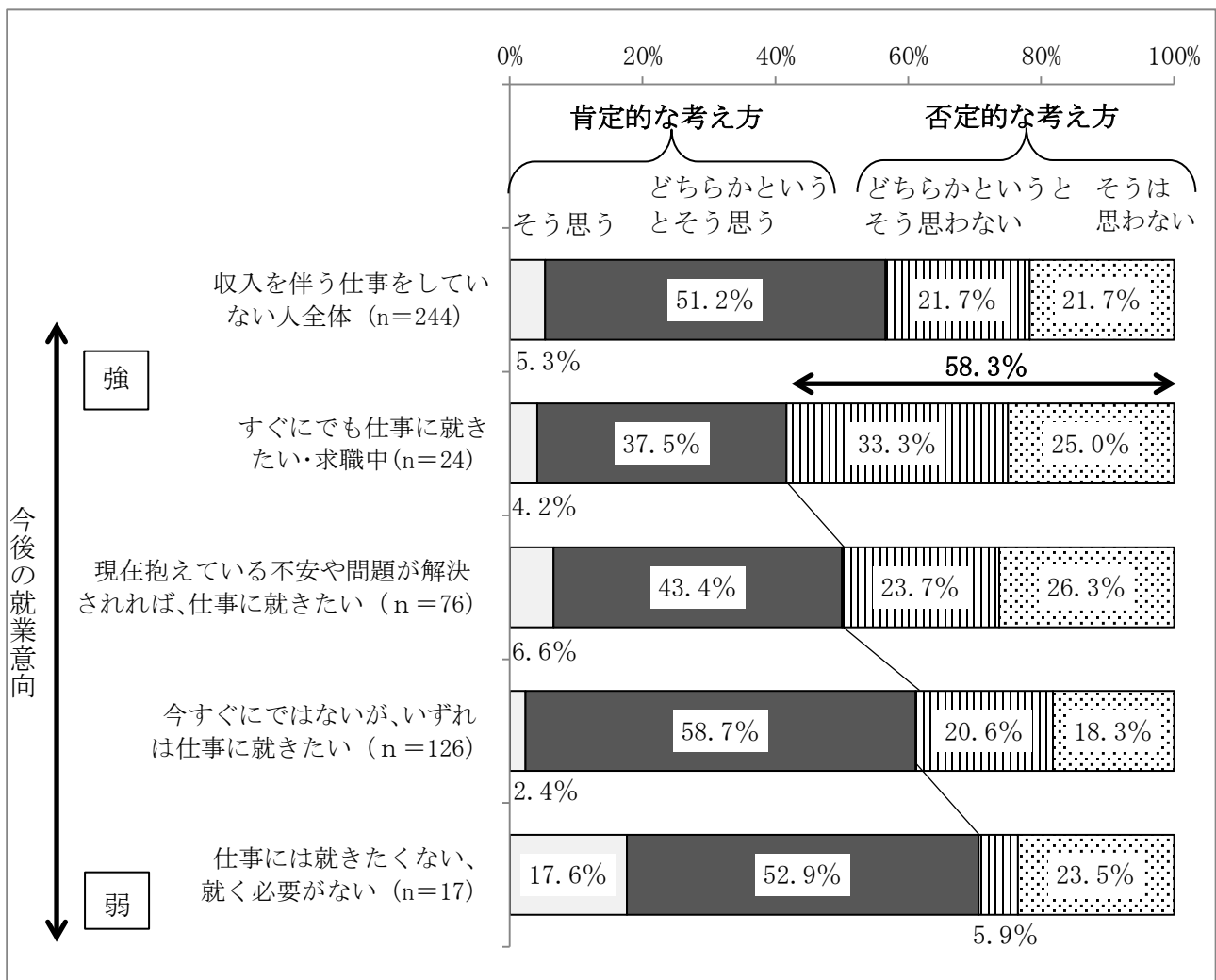
図表 27-(1) 現在の就業状況別
「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」
という考えに対する回答者自身の考え



(2) 今後の就業意向別にみた「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考えに対する回答者自身の考え

「収入を伴う仕事をしていない」人（244人）の中では、今後の就業意向が強いほど、否定的な考え方の人の割合が多い傾向がみられる。特に、「すぐにでも仕事に就きたい・求職中」の人（24人）は、否定的な考え方が58.3%と、「収入を伴う仕事をしていない」人全体と異なり、肯定的な考え方よりも否定的な考え方の人が多くなった。

図表 27-(2) 今後の就業意向別
「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」
という考えに対する回答者自身の考え
(現在、収入を伴う仕事をしていない人)

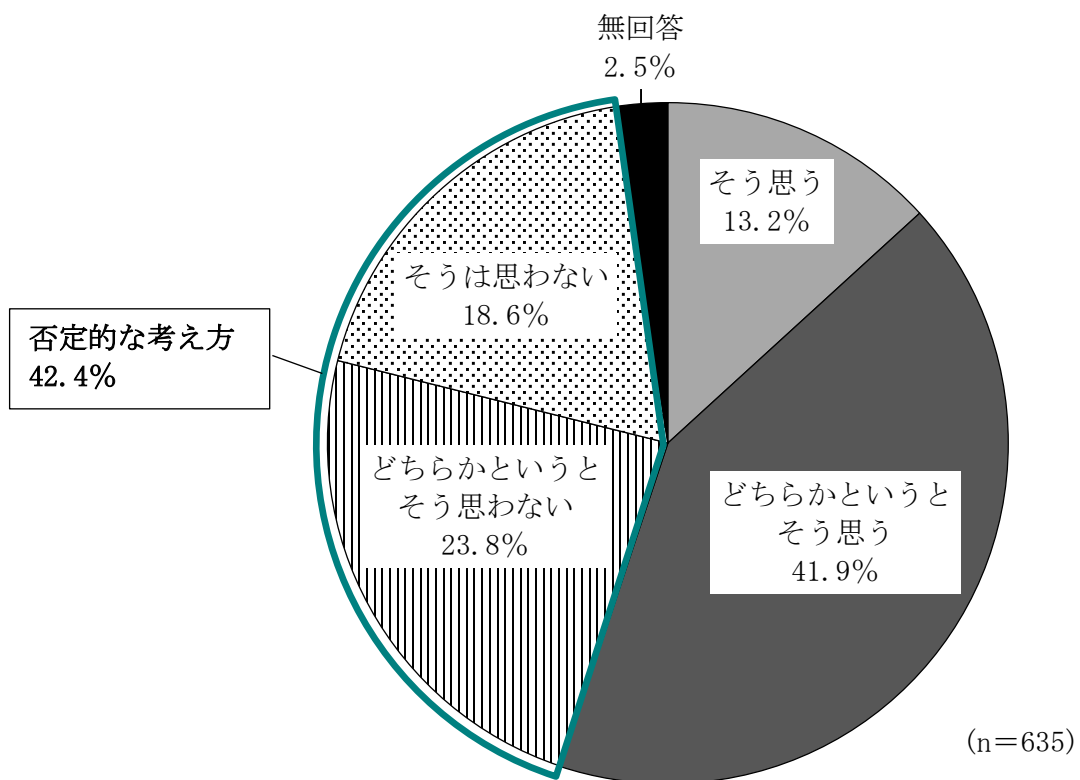


2 「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考えに対して、夫・パートナーはどう考えていると思うか（問 28）

「結婚している（夫・パートナーと同居又は単身赴任）」人（635 人）に、「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考え方について、夫・パートナーはどう考えていると思うかをたずねた。

否定的な考え方は 42.4%で、回答者自身の考え（図表 27、否定的な考え方 57.6%）よりも低くなっている。

図表 28 「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考えに対して、夫・パートナーはどう考えていると思うか

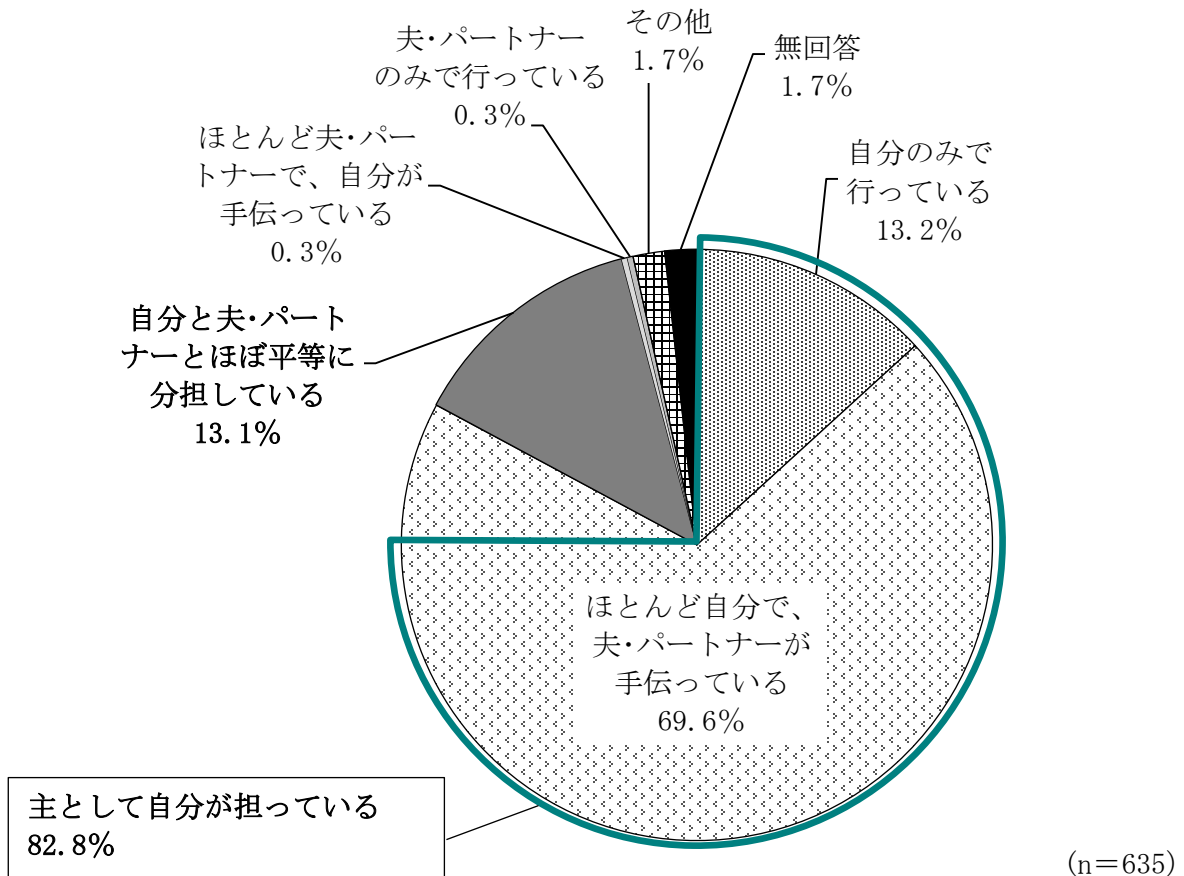


3 夫・パートナーとの家事・育児・介護等の分担状況（問 29）

「結婚している（夫・パートナーと同居又は単身赴任）」人（635 人）に、夫・パートナーとの家事・育児・介護等の分担状況についてたずねた。「ほとんど自分で、夫・パートナーが手伝っている」（69.6%）が最も多く、次いで「自分のみで行っている」（13.2%）となっており、両者を合計すると約8割（82.8%）の人が、主として自分が家事・育児・介護等を担っている。

また、「自分と夫・パートナーとほぼ平等に分担している」は13.1%であった。

図表 29 夫・パートナーとの家事・育児・介護等の分担状況

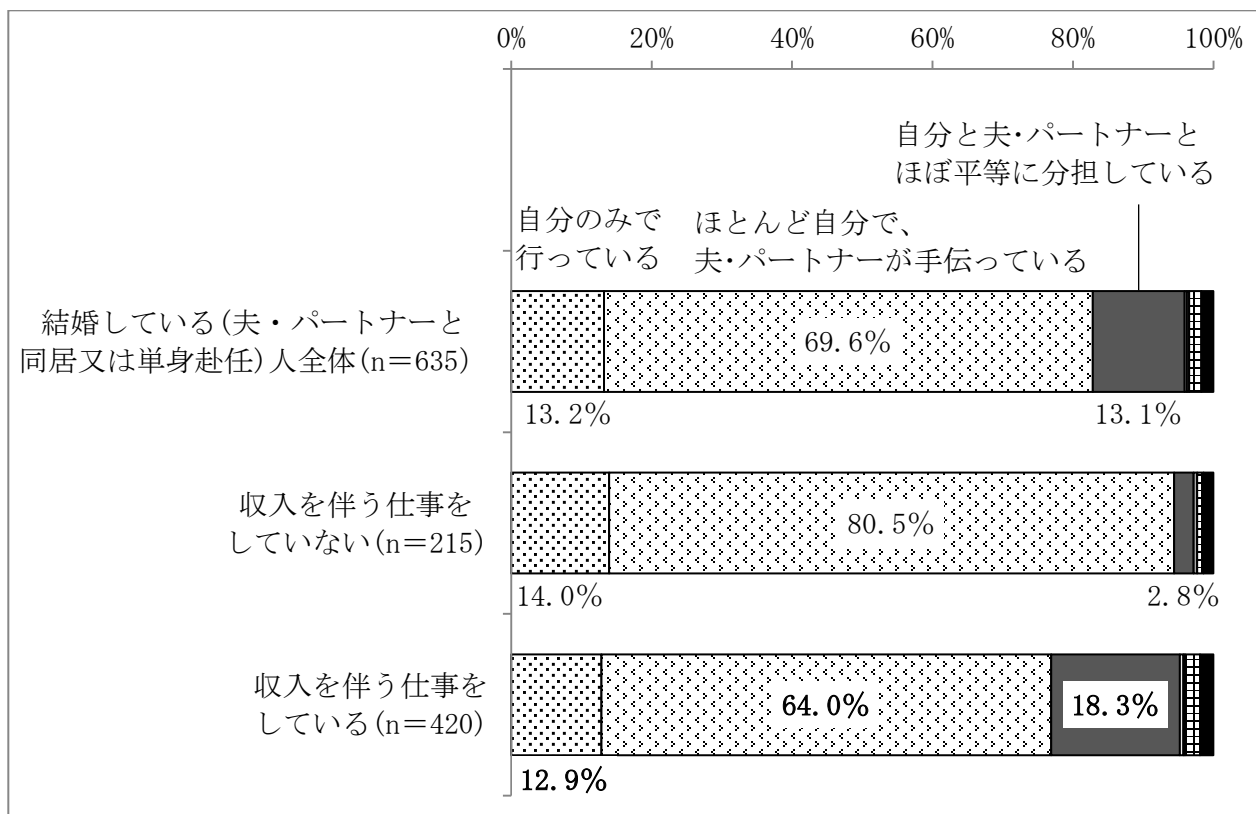


(1) 現在の就業状況別にみた夫・パートナーとの家事・育児・介護等の分担状況

現在の就業状況別にみると、「収入を伴う仕事をしている」人（420人）の中では、「自分と夫・パートナーとほぼ平等に分担している」が18.3%と、全体（13.1%）よりも若干割合が高いものの、最も多いのは「ほとんど自分で、夫・パートナーが手伝っている」（64.0%）である。また、「自分のみで行っている」人の割合（12.9%）も、「収入を伴う仕事をしていない」人（14.0%）とほとんど変わらない。

収入を伴う仕事をしている中でも女性は、主として自分が家事・育児・介護等を担っていることがうかがえる。

図表 29- (1) 現在の就業状況別 夫・パートナーとの家事・育児・介護等の分担状況

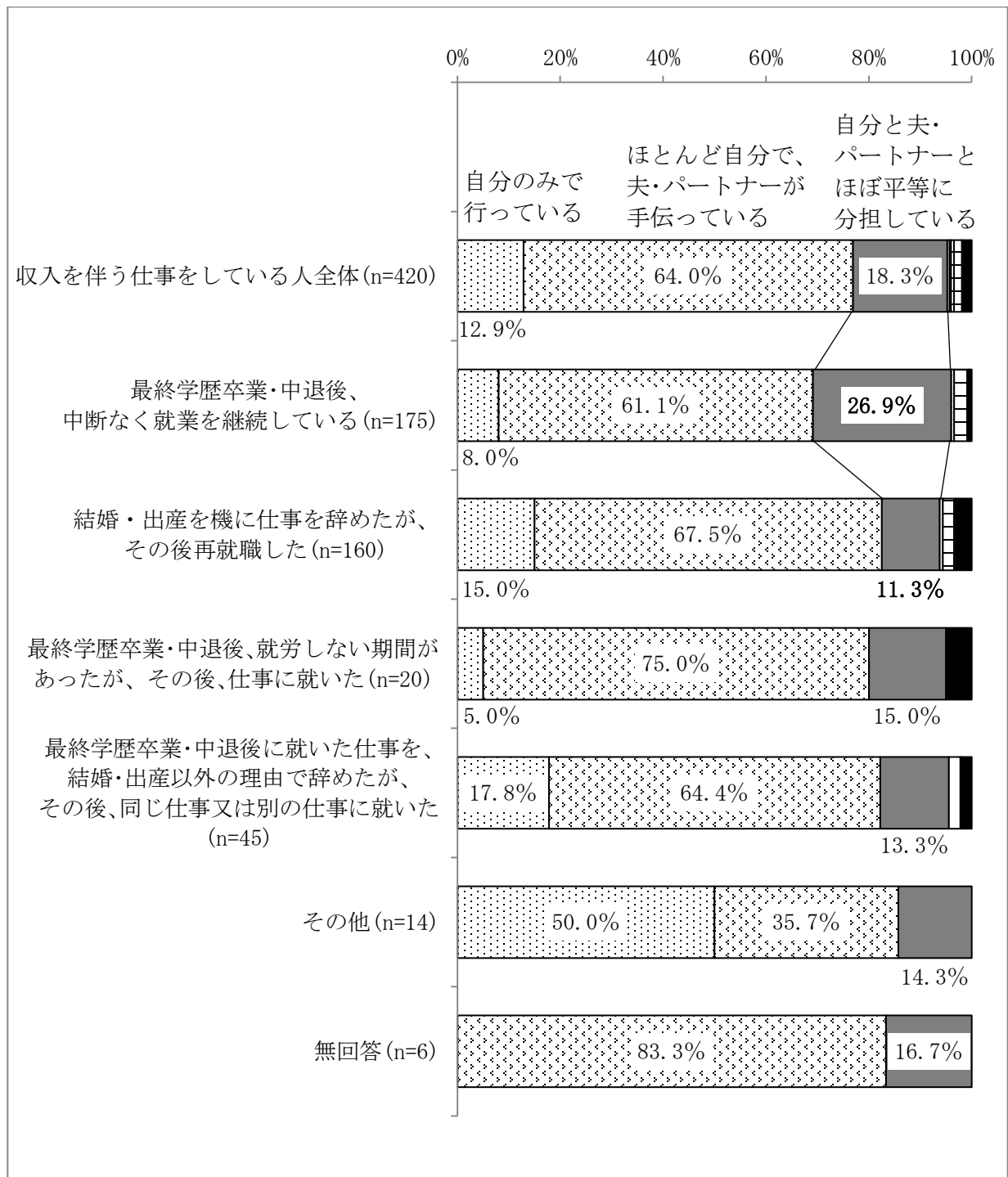


(2) 現在の仕事に就いた時期別にみた夫・パートナーとの家事・育児・介護等の分担状況

「収入を伴う仕事をしている」人（420人）について、現在の仕事に就いた時期別の家事・育児・介護等の分担状況をみた。

「自分と夫・パートナーとほぼ平等に分担」の割合が、最終学歴卒業・中退後、中断なく就業を継続している人では26.9%であるのに対し、結婚・出産を機に仕事を辞めたが、その後再就職した人では、11.3%と、就業を継続している人の半分以下となる。就業継続のためには、家事・育児・介護等の分担が重要であることがうかがえる。

図表 29-(2) 現在の仕事に就いた時期別
夫・パートナーとの家事・育児・介護等の分担状況



第6部 主な自由意見

女性が働くことについての意見を自由記入形式で伺った（問 30）ところ、678 人から回答をいただいた。主な意見を以下にまとめる。

1 女性も積極的に働くべき、女性自身にとっても、社会にとっても良いこと、など

- 社会にとっては女性も大きな力を持った人材であり、積極的に働くべきだと思う。その方が日本にとっても良い。女性自身の考え方を変えた上で、会社や地域などが女性が働くことへのサポート（制度の整備、向上）を行うことで、女性の社会進出が実現すると思う。
- 働くことはあたりまえのことだと思う。あたりまえのことができない世の中がおかしいのであって、子育て中の女性も働ける環境を整えてあげることが政治の役割だと思う。
- 自立しているという自信もつき、視野を広げるためにも、良いことだと思う。
- 子育てだけではさみしく感じるし、働くことで視野も広がり、子育てにも影響すると思う。

2 子どもがある程度成長するまで、女性は子育てに専念すべき

- 女性が働くことは素晴らしいことだと思うが、子どもの成長を考えると、両親共働きが良いことなのか悩む。子どもができたら、子育てに専念することが子どものため、未来のためだと思う。それができるのもまた、女性の大切な役割だと考える。子どもができたら女性は、ある程度成長するまでは家庭にいて、その間に受講できる様々な講座や再就職のための情報を提供をしてもらうことで、子育てを終えた後も安心して働けるようになるのではないか。

3 育児・介護支援の充実

- 現在産休中だが、育休が1年あっても保育園の1歳入園が難しく、子どもと1年間一緒にいることができない。もっと保育園にスムーズに入園する事ができれば、不安なく出産し、仕事を続ける女性が増えると思う。
- 保育などハード面でも、待機児童ゼロなどを言っていますが、実状としては、自宅から近い預け先は空きがないとか、保育内容をみて安心して依頼できるところまで選択はできない現状。
- 独身時代は男性なみに出張、残業をしていたが、出産後は保育園の迎えの時間があるため残業はできない。残業は直前にならないと分からず、月1回だけのことも多いため、現在の横浜市の延長保育は利用しづらい。1回単位での支払いができると残業、研修に参加しやすくなる。
- 女性が遅くまで働けるよう、子どもを預けられる時間をもっと遅くまで増やしたらいい。駅前などを有効活用して保育所を増やす。
- 保育園も大切だが、小学校へ入学してからの方がどちらかというと大変。大体の会社は子どもが小さい頃の制度はあるが、小学校に入るとなくなるため。基本的に小学校までの充実した制度があるととても助かる。
- 働く女性が多くなっている世の中、介護サービスの充実は外せない課題だと思う。

4 キャリアアップや起業などの支援

- 働く女性向けセミナー、キャリアアップ講座など、どんどん開催していただければうれしい。アンテナは常にみなさん立てている。
- セミナーなども参加したいが、有料だったり、時間が選べず行けない。お知らせなども少ないので各方面で拡充させてほしい。
- 未婚の方が増えているので、働かざるをえない方も多と思う。生活するために働く、高齢になられても働かなくてはいけない。そのためにはたくさん知識や資格が必要かと思う。働くこと、働けるように、行政の方もなにか案内や講座など支援があればとても助かると思う。
- 起業ができるようになりたい。そういった女性向けのセミナーがほしい。
- 出産後の雇用が厳しい。キャリア、資格があれば良いが、ない人は資格や勉強するにもお金や時間がかかる。離婚して生活がかかってくるとそんな時間もとれず、誰にでも出来る非正規職に就くしかないのが現状である。

5 企業における環境づくり

(1) 働き方の多様化の推進

- (国が、育児休業を) 3歳まで取れるようにすると言っていたが、長期すぎて、復職時への不安も大きい。それよりも、働き方の多様性を重視すべき。
- 短時間勤務制度やフレックスタイム制度を採用している会社が、もっと増えてほしい。そして契約社員でも、様々な制度を利用しやすい環境になってほしい。
- 女性に対する短時間勤務制度やフレックスタイム等だけでなく、男性が育児を分担できるよう、同じような勤務時間の融通が可能であると良い。

(2) 同僚の負担軽減、仕事をシェアする仕組み

- 今の職場は、女性が産休・育休を取得することに理解がある。ただ、産休取得する方がいても代替人員がない場合もあり、周りの人がその分の業務を負担している。代替人員を一定期間のみ雇う場合も業務指導に時間がかかる。産休・育休の取得推進はもちろん、他の従業員の仕事の負担も低減できるような仕組みを作っていたきたい。
- 子育てや介護で仕事をセーブしなければならない状況は誰にでも起こり得ることであり、安心して休めること、また復帰できることが保証されるようにしていく必要がある。そのためには、休んでいる間の戦力は正規職員をきちんと充当して、残っているメンバーが負担増にならないようにする、社会がそれを当然と思えることが大切だと思う。
- 小さな子供がいる家庭には、一時的に育児に専念し、数年後復職しやすい環境を作ることや、短時間勤務の人たちで仕事をシェアし、休みを急に取るなどの場合にフォローし合う体制作りなどが必要だと思う。働く女性、特に子育て中の方は、いかに効率よく業務を片付け、家事も効率的にこなすかを常に考えており、会社にとってもマイナス要素ばかりとは思わない。

(3) 職場の意識改革、差別やハラスメントの解消

- 育児等のための制度はあっても、利用することに、上司・同僚から嫌な顔をされる。従業員が制度を利用しなくても、会社にペナルティーはなく、名ばかりの制度で、ないのと同じである。
- 多くの上司が男性であることから、急な休みやフレックスタイム利用に対する理解が得られず、肩身の狭い思いをすることがあるので、もっと理解してもらえよう職場環境が改善されると良いと思う。
- 女性特有の体調の変化（法的休暇の取得）などは、なかなか男性に理解しにくい部分ではあるが、少なくとも会社の上に立つ立場の方々には、知識や理解力をもっと接していただきたい。
- 高齢の役員の中には、重要な仕事や数字関係の仕事は女性には任せられない、と言う方もいて、仕事に対するモチベーションが上がらないときがある。
- 出世については、男女平等に感じない。しかも、女性差別意識を強くもっている男性が少なくない。
- 男女間の賃金の格差や待遇の違いなどによって、頑張っても報われない歴史があるため、若い世代にとっては専業主婦願望が増えているのではないか。

6 社会全体における制度づくり

- 育休制度、仕事復帰後の時短など、職種・職場によって様々なので、統一して欲しい。時短がない、1年間時短が取れる、子どもが小学校3年生まで…といったように、差があり過ぎると思う。もっと、女性が社会へ働きやすいように、制度を整え、安心して働ける世の中になって欲しい。
- 大企業と中小零細企業とでは、育児に関する会社の姿勢、制度にあまりにも差があり過ぎる。
- 意識が変わるくらいの制度の改革が必要。長期休暇をとっても必ずポジションに戻れる、もしくは昇格が早くなるとかにすれば、育休も介護休も女性も男性もとるようになる。「必ずとる」制度にする。
- 一度就職しても、結婚出産のためには離職せざるを得ない人が多い。パートナーも忙しく、両親に頼れない場合は難しい。出産、育児で休んだ後、復職できるようにその間のフォローをしてほしい。仕事も子どももあきらめなくて良いように企業が努力するべき。今現在で、理想的な職業は資格のある仕事、薬剤師、看護師など一部に限られている。
- 子どものことを考えると、小さいうちは一緒により添って育てていく方が良いと思うが、そのために一度、会社を辞めてしまうと、年齢的にもパートしかなくなってしまふ。育休期間を延ばすよりも、パートとして働いたのち、ある程度の能力がいたら正社員として雇用することを義務づけてほしい。
- 配偶者控除や第三号被保険者扱いの制度の見直しや廃止が検討されているが、女性が働く環境を整備し、拡大するような制度を考える方が先決なのではないかと思う。その上で意識改革を進めないと「収入を得られない人から搾取する」事態を引き起す社会ができあがってしまうように危惧する。

7 社会全体での意識改革

- 育児を母親ひとりに押しつけない社会全体の意識改革が必要と思われる。

- 女性の社会進出イコール、保育の充実というような論調は、子育ては女性の役割という意識が根底にあるように感じられ、いつも違和感を覚えてしまう。男性が子育てに関われば「イクメン」などともてはやされ、いつまでも女性の手伝いの域を出ない感じである。子育ては男性と女性の両者が主体的に行うように、男性、女性、社会全体の意識が変わっていかないと、女性の社会進出や活躍は進まないと考える。
- いくら女性の就業を求めても、①女性自身が働くことを当然、②男性が家事育児を行うことが当然と考えるよう意識変化させなければ、無理。そのためには教育が必要。
- P T A、子ども会の役員など、専業主婦や短時間勤務のパート就労が前提の部分がある。それにもかかわらず、働いていても関係ないからと役員が強制されるなどして、小1の壁で離職する人も多く、女性も含め社会全体が、母親の就労についてまだまだ特別なもの、一部の人のものという意識が高いように感じる。
- 男性では、「女性は働くより家庭を作り、守るべき」という考えが優勢のようだが、社会や会社組織から意識を変えられれば、セクハラや不当な扱いなどがなくなり、より良く働くことができるようになると考える。

8 母子家庭への支援

- シングルマザー、子どもへのサポート、支援がまだまだ足りない。1人の親がすべてのことはできないので、他の大人のしっかりしたサポートがないと通常の生活はできない。障害・病気をかかえ、自立していくにはどうしたらいいのか大変悩む。
- 母子家庭の母親がより働きやすい職場を増やすべき。正社員に登用してほしい。

9 配偶者控除等の継続

- 働きたいのならば働けばよいと思うが、専業主婦の配偶者控除や第三号被保険者扱いについて、働いている女性と公平でないといって制度を廃止にしないでほしい。女性がすべてみな働きたいと思っているわけではなく、わざわざ保育料のかかる未就学児の間に働きたいとは思っていない人もたくさんいる。そんな人たちにとって、配偶者控除等が廃止となれば、働くことよりも、子どもを産む数を減らすことになると思う。
- 子育てや介護がある主婦にとって、働く時間に制限があり、年収も少ない。仕事以外に家事もしているのだから、配偶者控除があるのは当然だと思っている。制度を廃止しても、社会福祉が充実するとは思えないし、企業が勧めるキャリアアップにも、自腹で参加しなければならず、メリットがない気がして、とても不安を感じている。
- 配偶者控除がなくなった場合、時給を上げるなどの対策が欲しい。

女性の就業ニーズ調査

ご協力のお願い

平素から、横浜市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

横浜市では、「日本一女性が働きやすい、働きがいのある都市横浜」の実現を目指して、女性の活躍を応援するさまざまな取組を行っています。

この調査は、女性の再就職や就業継続などに関するご希望やお悩み、必要とされる支援などをお伺いし、女性の活躍を応援する施策を進めるために実施するものです。

今回、無作為に抽出した横浜市にお住まいの20歳以上49歳以下の女性3,000人に回答をお願いしています。回答は、10～15分程度ですみますので、ご多忙とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

調査の結果を公表する際、個人の名前が出ることや、他の目的に使用することはありません。また、個人情報については本市において厳重に管理いたします。

ご回答は、同封の返信用封筒にて**平成26年9月1日（月）までにご投函**くださいますよう、お願いいたします。

なお、ご回答いただいた方の中から抽選で500名様に、ご協力のお礼として、女性が持ち歩くにも便利な「防災6点セット 番犬くん」[※]をお送りさせていただきます。抽選をご希望の方は調査票返送の際、返信用封筒の所定の欄に、お名前とご住所をご記入ください。

※ご記入いただいた情報は、横浜市内で厳重に管理し、当選品の発送以外には使用しません。

※調査の集計では、ご記入いただいた個人情報と回答内容を照合することはありません。

平成26年8月

横浜市市民局

<次ページ以降の単純集計結果の凡例>

n：回答者の総数

()内の数値：回答者の比率(%)

あなたご自身のことについてお尋ねします。該当する番号を1つ選び、○をつけてください。

F7で「1. 同居している子どもがいる」とお答えの方にお伺いします。	
F 8. 一番下のお子さんは次のどちらにあたりますか。 n=532	1. 0～3歳 (33.3) 2. 4歳～就学前 (13.5) 3. 小学生低学年 (1年生～3年生) (13.5) 4. 小学生高学年 (4年生～6年生) (12.8) 5. 中学生 (11.5) 6. 中学生卒業以上の18歳以下 (8.8) 7. 19歳以上 (5.5) 無回答 (1.1)
F 9. あなたは現在、収入を伴う仕事をしていますか。 n=932	1. 収入を伴う仕事をしていない (26.2) 2. 収入を伴う仕事をしている (73.8) → F11へお進みください * <u>育児休業、介護休業等</u> を取得中だが雇用は維持されている場合や、 <u>自営・家族従業、家庭内職・在宅ワーク</u> は、「2. 収入を伴う仕事をしている」に含みます。
F9で「1. 収入を伴う仕事をしていない」とお答えの方にお伺いします。	
F10. 現在の状況をお答えください。 n=244	1. 家事専業 (86.5) 2. ボランティア・社会貢献活動 (0.8) 3. 学生 (5.7) 4. 無職 (家事・活動・就学をしていない。) (4.1) 5. その他 (2.9)
→ 回答後、問1へお進みください	
F9で「2. 収入を伴う仕事をしている」とお答えの方にお伺いします。	
F11. あなたの職業は、次のどちらですか。 n=688	1. 会社役員 (1.2) 2. 正規の社員・職員 (49.7) 3. パート・アルバイト (28.2) 4. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員 (13.1) 5. 起業家・経営者・個人事業主 (1.0) 6. 自営・家族従業 (法人以外) (1.2) 7. 自由業 (0.4) 8. 家庭内職・在宅ワーク (0.9) 9. その他 (0.9) 無回答 (3.5)
F9で「2. 収入を伴う仕事をしている」とお答えの方にお伺いします。	
F12. あなたの年収は、次のどちらですか。 n=688	1. 130万円未満 (26.2) 2. 130万円以上200万円未満 (8.7) 3. 200万円以上300万円未満 (18.8) 4. 300万円以上400万円未満 (17.0) 5. 400万円以上500万円未満 (11.8) 6. 500万円以上700万円未満 (9.7) 7. 700万円以上1,000万円未満 (3.6) 8. 1,000万円以上 (1.2) 無回答 (3.1)
→ 回答後、問16へお進みください	

I. F9で「1. 収入を伴う仕事をしていない」と回答された方にお伺いします。
それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問1. あなたは過去に、収入を伴う仕事をしていたことがありますか。
1つ選択してください。

n=244

問1 回答欄 〈番号1つ〉

1. ある (かつて働いていたが今は働いていない) (95.5)
2. ない (最終学歴卒業・中退後、一度も働いたことはない) (0.0%)
3. ない (在学中) (4.5) → **問8へお進みください**

問2は、問1で「1. ある(かつて働いていたが今は働いていない)」又は「2. ない(最終学歴卒業・中退後、一度も働いたことはない)」とお答えの方にお伺いします。

問2. あなたが現在仕事をしていない主な理由は何ですか。
最もあてはまるものを3つまで選択してください。

n=233

問2 回答欄 〈番号3つまで〉

1. 経済的に働く必要がないから (23.2)
2. 仕事以外にやりたいことがあるから (6.0)
3. 家事・育児・介護等に専念したいから (54.5)
4. 家庭を守るのが当然だから (6.4)
5. 夫・パートナーや家族の理解が得られないから (3.4)
6. 家事・育児・介護等との両立に自信がないから (49.4)
7. 夫・パートナーが家事・育児・介護等を分担できないから (長時間労働、単身赴任など) (22.7)
8. 家族の都合で転勤、転居が多いから (7.3)
9. 自分が病気・怪我をしているから (8.2)
10. 希望どおりの仕事が見つからないから (27.5)
11. その他 (16.7)

I. F9で「1. 収入を伴う仕事をしていない」と回答された方にお伺いします。
 それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問3から問5は、問1で「1. ある(かつて働いていたが今は働いていない)」とお答えの方にお伺いします。

問3. 仕事を辞められた時期はいつですか。 1つ選択してください。

n=233

1. 結婚を機に辞めた (27.0)
2. 第1子の妊娠・出産・育児を機に辞めた (42.1)
3. 第2子以降の妊娠・出産・育児を機に辞めた (4.7)
4. 家族の介護を機に辞めた (1.7)
5. 家族の転勤・転居を機に辞めた (8.2)
6. その他 (15.0)

無回答 (1.3)

問3 回答欄 〈番号1つ〉

問4. 仕事を辞められた主な理由は何ですか。
最もあてはまるものを3つまで選択してください。

n=233

1. 仕事以外にやりたいことがあったから (4.7)
2. 家事・育児・介護に専念したかったから (51.9)
3. 結婚・出産などを機に辞めるのが当然だと思ったから (13.3)
4. 夫・パートナーや家族の理解が得られなかったから (1.7)
5. 夫・パートナーが家事・育児・介護等を分担できなかったから
 (長時間労働、単身赴任など) (16.3%)
6. 会社側に、育児・介護等をしながら仕事をする事への支援制度がなかったから (14.6)
7. 妊娠・出産した人や介護を抱える人は、会社を辞めざるを得ない雰囲気だったから (10.3)
8. 仕事にやりがいを感じられなかったから (12.4)
9. 仕事がきつく、続けるのが困難だったから (22.3)
10. 病気・怪我をしたから (7.7)
11. 会社の倒産やリストラがあったから (1.7)
12. 家族の転勤、転居があったから (15.9)
13. その他 (18.5)

問4 回答欄 〈番号3つまで〉

問5. あなたが最後に就いていた職業は次のどちらですか。 1つ選択してください。

n=233

1. 会社役員 (0.4)
2. 正規の社員・職員 (46.8)
3. パート・アルバイト (28.3)
4. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員 (20.6)
5. 起業家・経営者・個人事業主 (1.3)
6. 自営・家族従業 (法人以外) (0.9)
7. 自由業 (0.0)
8. 家庭内職・在宅ワーク (0.0)
9. その他 (0.4)

問8へお進みください

無回答 (1.3)

問5 回答欄 〈番号1つ〉

I. F9で「1. 収入を伴う仕事をしていない」と回答された方にお伺いします。
それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問6と問7は、問5で1~4のいずれかを選択した方にお伺いします。

問6. あなたが最後に就いていた業種は、次のどちらですか。 1つ選択してください。 n=224

問6 回答欄 〈番号1つ〉

1. 建設業 (3.1)
2. 製造業 (13.8)
3. 運輸・通信業 (3.6)
4. 卸売・小売、飲食業 (15.6)
5. 金融・保険業 (7.6)
6. サービス業 (公務以外の医療、教育関係を含む。) (42.4)
7. 不動産業 (0.9)
8. 公務 (官公庁、警察など) (4.5)
9. その他 (7.1) 無回答 (1.3)

問7. あなたが最後に就いていた職種は、次のどちらですか。 1つ選択してください。 n=224

問7 回答欄 〈番号1つ〉

1. 経営層 (0.0)
2. 管理職 (0.9)
3. 専門・技術職 (医師、看護師、薬剤師、技師、教員、保育士、介護士 など) (25.9)
4. 事務職 (43.3)
5. 販売サービス職 (18.8)
6. 営業職 (4.9)
7. 技能職 (工員・作業員等) (1.3)
8. その他 (3.6) 無回答 (1.3)

問8は、再び皆様にお伺いします。

問8. あなたは今後、仕事に就きたいと思いませんか。 1つ選択してください。 n=244

問8 回答欄 〈番号1つ〉

1. すぐにでも仕事に就きたい・求職中 (9.8)
 2. 現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事に就きたい (31.1)
 3. 今すぐにはではないが、いずれは仕事に就きたい (51.6)
 4. 仕事には就きたくない、就く必要がない (7.0) → **問14へお進みください**
- 無回答 (0.4)

I. F9で「1. 収入を伴う仕事をしていない」と回答された方にお伺いします。
 それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問9から問12は、問8で1～3のいずれかを選択した方にお伺いします。

問9. 再就職又は就職したい理由は何ですか。

最もあてはまるものを3つまで選択してください。

n=226

問9 回答欄 〈番号3つまで〉

1. 生計を維持・補助するため (61.1)
2. 老後資金や結婚資金など将来に備えるため (27.4)
3. 子どもの教育費のため (52.7)
4. 住宅ローン・奨学金など借金返済のため (18.6)
5. 自分の能力や資格を生かしたいから (28.3)
6. 社会や他人とのつながりを持ちたいから (39.8)
7. 経済的に自立したいから (18.6)
8. “働くこと” は当たり前だから (7.1)
9. 時間に余裕があるから (13.7)
10. その他 (2.7)

問10. 再就職又は就職する場合、どのような働き方を希望しますか。

1つ選択してください。

n=226

問10 回答欄 〈番号1つ〉

1. 正規の社員・職員でフルタイム*勤務 (15.0)
2. 正規の社員・職員で短時間勤務 (15.9)
3. パート・アルバイト (50.9)
4. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員でフルタイム*勤務 (0.9)
5. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員で短時間勤務 (12.4)
6. 在宅勤務・テレワーク (1.3)
7. 起業 (自分で事業を始める) (2.7)
8. 自営業・家族従業 (法人以外) (0.4)
9. その他 (0.4)

※フルタイム…概ね週5日、1日8時間程度

問11. 再就職又は就職する場合、希望する仕事内容は、次のどちらですか。

1つ選択してください。

n=226

問11 回答欄 〈番号1つ〉

1. 保有する資格及び前職での経験の両方を活かした仕事 (25.7)
2. 保有する資格を活かした仕事 (10.2)
3. 前職での経験を活かした仕事 (22.6)
4. 保有する資格や前職での経験とは関係のない仕事 (6.6)
5. 仕事内容は特に問わない (35.0)

問12. 現在、お持ちの資格があれば、記入してください。

例：小学校教諭免許、医師、建築士、ウェブデザイン技能検定 など

n=226

問12 回答欄 〈資格の内容を記入〉

I. F9で「1. 収入を伴う仕事をしていない」と回答された方にお伺いします。
 それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問 13 は、問8で「2. 現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事に就きたい」とお答えの方にお伺いします。

問 13. あなたが今後、仕事をしようとする上で不安に思っていること、問題などは何ですか。
最もあてはまるものを3つまで選択してください。 n=76

問 13 回答欄 〈番号3つまで〉

1. 夫・パートナーや家族の理解を得られるか (3.9)
2. 夫・パートナーや家族が家事・育児・介護等を分担してくれるか (19.7)
3. 保育サービス、介護サービス等が利用できるか (19.7)
4. 必要な技術や知識が自分に十分あるか、対応できるか (21.1)
5. 離職期間が長いこと (36.8)
6. 自分の体力・健康 (47.4)
7. 職場の人間関係 (14.5)
8. 育児・介護と仕事を両立するための勤務制度*を利用できるか (32.9)
 ※短時間労働制度、フレックスタイム制度、残業の免除、育児・介護休業制度など
9. 希望する職種や仕事内容、処遇の会社が見つかるか (42.1)
10. 希望する通勤時間・通勤距離での仕事であるか (31.6)
11. その他 (6.6)

→ 回答後に問 15 にお進みください

問 14 は、問8で「4. 仕事には就きたくない、就く必要がない」とお答えの方にお伺いします。

問 14. 仕事に就きたくない、就く必要がないのは、どのような理由からですか。
最もあてはまるものを3つまで選択してください。 n=17

問 14 回答欄 〈番号3つまで〉

1. 経済的に働く必要がないから (47.1)
2. 地域活動、PTA活動、ボランティアなどをやりたいから (0.0)
3. 趣味を充実させたいから (5.9)
4. 今後も家事・育児・介護等に専念したいから (58.8)
5. 夫・パートナーや家族と対立したくないから (0.0)
6. 家事・育児・介護等と両立するのは困難だから (41.2)
7. 夫・パートナーが家事・育児・介護等を分担できないから (長時間労働、単身赴任など) (11.8)
8. 職場の人間関係が不安だから (23.5)
9. 健康面に不安があるから (17.6)
10. その他 (11.8)

I. F9で「1. 収入を伴う仕事をしていない」と回答された方にお伺いします。
それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問 15 は再び皆様にお伺いします。

問 15. 就職・再就職するために、どのような行政からの支援が必要だと思えますか。
優先順位の高いものを3つまで選択してください。

n=244

1. 技術・能力向上のための訓練・講座 (25.4)
2. 不安や悩み、能力開発や就職活動に関する相談窓口 (23.4)
3. 就職・再就職のための支援情報や求人に関する情報提供、求人元とのマッチング
(51.2)
4. 求人企業等でのインターンシップ (就労体験) の実施 (10.2)
5. 女性の働き方 (離職率や再就職の状況など) に関する情報提供 (20.5)
6. 保育・介護等に関する公的サービスの充実 (50.0)
7. 女性の採用・登用や、育児・介護と仕事を両立するための勤務制度の整備・運用につ
いての、企業への働きかけ (69.3)
8. 起業に関する情報提供 (2.0)
9. その他 (2.5)
10. 特に支援は必要ない (1.6)

問 15 回答欄 〈番号3つまで〉



回答後に問 27 へお進みください

II. F9で「2. 収入を伴う仕事をしている」と回答された方にお伺いします。
 それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問 16. 現在のお仕事は、いつから続けていらっしゃいますか。 1つ選択してください。 n=688

問 16 回答欄 〈番号1つまで〉

1. 最終学歴卒業・中退後に就いた仕事をずっと続けている (29.2)
2. 最終学歴卒業・中退後に就いた仕事からは転職しているが、仕事はずっと続けている (22.7)
3. 最終学歴卒業・中退後に就いた仕事を結婚・出産を機にいったん辞めたが、その後、同じ仕事に復帰した (3.6)
4. 最終学歴卒業・中退後に就いた仕事は結婚・出産を機に辞めたが、その後、別の仕事に就いた (22.5)
5. 最終学歴卒業・中退後、就労しない期間があったが、その後、仕事に就いた (5.5)
6. 最終学歴卒業・中退後に就いた仕事を、結婚・出産以外の理由で辞めたが、その後、同じ仕事又は別の仕事に就いた (11.0)
7. その他 (3.9) 無回答 (1.5)

→ 問 18 へお進みください

問 17 は、問 16 で3～7のいずれかを選択した方にお伺いします。

問 17. どのようなことが、あなたが再就職又は就職できた理由だったと思いますか。
最もあてはまるものを3つまで選択してください。 n=321

問 17 回答欄 〈番号3つまで〉

1. 以前の仕事において、能力や実績を積んでいたこと (47.0)
2. 技術・能力向上のための訓練・講座を受講したこと (20.2)
3. 能力開発や就職活動に関する相談ができたこと (3.1)
4. キャリアカウンセリングなどにより、就職する際の不安や悩みを解決・緩和できたこと (1.9)
5. 企業等でのインターンシップ (就労体験) を受けられたこと (0.6)
6. 保育・介護等に関する公的サービスが受けられるようになったこと (11.8)
7. 職場に子育て、介護をサポートする制度があったこと (3.7)
8. 希望する働き方と、求人側のニーズをすりあわせ、働き方や仕事内容などについて自分の考え方を広げたこと (46.1)
9. 友人・知人から就職先や求人情報を紹介してもらったこと (19.6)
10. 家族の理解、家事・育児・介護等の分担が得られるようになったこと (40.2)
11. その他 (12.8)

問 18 と問 19 は、F11 で1～4のいずれかを選択した方にお伺いします。

問 18. 現在のお仕事の業種は、次のどちらですか。 1つ選択してください。 n=634

問 18 回答欄 〈番号1つ〉

1. 建設業 (2.7)
2. 製造業 (9.6)
3. 運輸・通信業 (2.7)
4. 卸売・小売、飲食業 (14.7)
5. 金融・保険業 (6.6)
6. サービス業 (公務以外の医療、教育関係を含む。) (36.9)
7. 不動産業 (1.6)
8. 公務 (10.4)
9. その他 (9.6) 無回答 (5.2)

II. F9で「2. 収入を伴う仕事をしている」と回答された方にお伺いします。
 それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問 19. 現在の職種は、次のどちらですか。 1つ選択してください。

n=634

問 19 回答欄 〈番号1つ〉

1. 経営層 (0.5)
 2. 管理職 (3.5)
 3. 専門・技術職 (医師、看護師、薬剤師、技師、教員、保育士、介護士 など) (33.0)
 4. 事務職 (33.9)
 5. 販売サービス職 (13.4)
 6. 営業職 (5.2)
 7. 技能職 (工員・作業員等) (2.4)
 8. その他 (5.5)
- 無回答 (2.7)

問 20 から問 22 は、再び皆様にお伺いします。

問 20. 現在の仕事に活かしている資格があれば、
 記入してください。

例：小学校教諭免許、医師、建築士、ウェブデザイン技能検定 など

n=286

問 20 回答欄 〈資格の内容を記入〉

問 21. あなたが働いている理由は次のどちらですか。

最もあてはまるものを3つまで選択してください。

n=688

問 21 回答欄 〈番号3つまで〉

1. 生計を維持・補助するため (74.9)
2. 老後資金や結婚資金など将来に備えるため (29.4)
3. 子どもの教育費のため (29.5)
4. 住宅ローン・奨学金など借金返済のため (16.0)
5. 自分の能力や資格を生かしたいから (25.1)
6. 社会や他人とのつながりを持ちたいから (39.7)
7. 経済的に自立したいから (25.6)
8. “働くこと” は当たり前だから (22.1)
9. 時間に余裕があるから (9.3)
10. 家業だから (1.6)
11. その他 (4.1)

問 22. あなたは、今後も、現在の仕事を続けたいと思いますか。 1つ選択してください。

n=688

問 22 回答欄 〈番号1つ〉

1. 続けたい (43.5) → 問 24 へお進みください
2. どちらかと言えば続けたい (33.6) →
3. どちらかと言えば変えたい (12.9)
4. 変えたい (6.3)
5. 仕事を辞めたい (3.2) → 問 24 へお進みください

無回答 (0.6)

II. F9で「2. 収入を伴う仕事をしている」と回答された方にお伺いします。
 それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問 23 は、問 22 で「3. どちらかと言えば変えたい」又は「4. 変えたい」とお答えの方に伺います。

問 23. 仕事を変えたい理由は次のどちらですか。

最もあてはまるものを3つまで選択してください。

n=132

問 23 回答欄 〈番号3つまで〉

1. 家事・育児・介護等との両立が困難だから (15.9)
2. 夫・パートナーや家族の理解が得られないから (0.0)
3. 体力的に、仕事がきついから (25.0)
4. 人間関係など、精神的に辛いから (25.8)
5. 今の職場が今後も存続するか心配だから (15.9)
6. 今の職場は、妊娠・出産した人や介護を抱える人や一定年齢になった人は辞めざるを得ない雰囲気だから (12.9)
7. 今より賃金や待遇がよい仕事に就きたいため (58.3)
8. 今の仕事にやりがいを感じられないため (37.1)
9. 今の仕事以上にやりたいことがあるため (24.2)
10. その他 (15.9)

問 24 は、夫が給与所得者(会社員や公務員)の方にお伺いします。

問 24. 配偶者控除^{※1}や、給与所得者の配偶者の第三号被保険者扱いの制度^{※2}が廃止されるとした場合^{※3}、あなたの働き方は変わりますか。 1つ選択してください。

n=454

問 24 回答欄 〈番号1つ〉

1. 現在既に、控除の対象となる金額を超えて自分の収入があり、働き方に影響はない (61.7)
2. 控除制度がなくなるのなら、現在よりも多くの収入を得られるよう、働き方を変えたい (18.3)
3. 現在の自分の収入は控除の対象となる金額以下だが、控除制度がなくなっても働き方は変えたくない (12.8)
4. 控除制度がなくなる場合は、仕事を辞めたい (2.9)
5. その他 (4.4)

※1. 配偶者控除：配偶者の年収が 103 万円以下の場合、配偶者が税控除を受けられる制度 (いわゆる「103 万円の壁」)

※2. 給与所得者の配偶者の第三号被保険者扱いの制度：年収が 130 万円未満の場合、配偶者が給与所得者であれば、社会保険料を負担せずにすむ制度 (いわゆる「130 万円の壁」)

※3. 実際に、これらの制度が廃止になるわけではありません。

II. F9で「2. 収入を伴う仕事をしている」と回答された方にお伺いします。
それぞれ回答欄に、選択した番号を記入してください。

問25と問26は、再び皆様に伺います。

問25. あなたが働き続けていく上で、悩みや不安を感じることは、どのようなことですか。
最もあてはまるものを3つまで選択してください。 n=688

問25 回答欄 〈番号3つまで〉

1. 家事・育児・介護等に十分な時間をかけられない (43.2)
2. 夫・パートナーや家族の理解が得られない・反対している (0.9)
3. 夫・パートナーや家族が家事・育児・介護等を分担してくれない (9.4)
4. 仕事がきつい、就労時間が長い(残業が多い、休日が少ない、休暇が取りにくい)
(27.9)
5. 仕事内容が自分には向いていない (7.1)
6. 賃金が安い (33.1)
7. 賃金、仕事の内容、地位などの面で男性と同等の待遇がされていない (4.7)
8. 仕事の内容が同等なのに、雇用形態の違い(正規の従業員か非正規か、など)により、同等の待遇がされていない (11.5)
9. 身分が不安定 (14.0)
10. 妊娠・出産・育児や介護等を抱える人が働き続けるための制度が、職場で整備されていない、又は、制度はあるが利用しづらい (14.2)
11. 女性が就労することや、妊娠・出産した人、介護を抱える人などに対して、職場で嫌がらせや圧力がある (1.3)
12. 職場の人間関係が難しい (13.7)
13. 職場に倒産やリストラのおそれがある (7.8)
14. 保育・介護サービスが不十分 (8.9)
15. その他 (10.3)
16. 悩みや不安は特にない (13.2)

Ⅲ. 全員にお伺いします。

問 26. あなたは、女性が働き続けていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

最もあてはまるものを3つまで選択してください。

n=688

1. 技術・能力を向上させる機会（研修、講座など。社内・社外問わない。）（16.4）
2. 能力開発や就職活動、働き方・両立方法などについてアドバイスしてくれる相談窓口（7.1）
3. 夫・パートナーや家族の理解（36.9）
4. 夫・パートナーや家族による家事・育児・介護等の分担（46.4）
5. 家事・育児・介護等と仕事の両立についての上司や職場の理解（45.8）
6. 働く女性同士のネットワーク、相談できる友人（7.6）
7. 育児・介護と仕事を両立するための勤務制度（短時間勤務制度、フレックスタイム制度、残業の免除、育児・介護休業制度など）（60.0）
8. 勤める企業等が、女性のキャリアアップを積極的に進めていること（人材育成、管理職への登用など）（16.0）
9. 保育・介護サービスの充実（36.2）
10. その他（6.4）
11. 特に必要なことはない（1.5）

問 26 回答欄 〈番号3つまで〉

Ⅲ. 全員にお伺いします。

問 27. 「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考え方について、あなた自身の考えは次のどちらですか。 1つ選択してください。 n=932

1. そう思う (4.4)
 2. どちらかというと思う (37.3)
 3. どちらかというと思わない (26.5)
 4. そうは思わない (31.1)
- 無回答 (0.6)

問 27 回答欄
〈番号1つ〉

問 28 は、F4で「1. 結婚している(夫・パートナーと同居又は単身赴任)」又は「2. 結婚している(夫・パートナーと別居)」とお答えの方にお伺いします。

問 28. 「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考え方について、あなたの夫・パートナーはどう考えていると思いますか。 1つ選択してください。 n=635

1. そう思う (13.2)
 2. どちらかというと思う (41.9)
 3. どちらかというと思わない (23.8)
 4. そうは思わない (18.6)
- 無回答 (2.5)

問 28 回答欄
〈番号1つ〉

問 29 は、F4で「1. 結婚している(夫・パートナーと同居又は単身赴任)」とお答えの方にお伺いします。

問 29. あなたの家庭では、夫・パートナーとの家事・育児・介護等の分担をどのようにしていますか。 1つ選択してください。 n=635

1. 自分のみで行っている (13.2)
 2. ほとんど自分で、夫・パートナーが手伝っている (69.6)
 3. 自分と夫・パートナーとほぼ平等に分担している (13.1)
 4. ほとんど夫・パートナーで、自分が手伝っている (0.3)
 5. 夫・パートナーのみで行っている (0.3)
 6. その他 (1.7)
- 無回答 (1.7)

問 29 回答欄
〈番号1つ〉

Ⅲ. 全員にお伺いします。

問 30 は、再び皆様にお伺いします。

問 30. 女性が働くことについてのお考えを自由にご記入ください。

【自由記入】

ありがとうございました。

ご回答は、同封の返信用封筒にて平成 26 年 9 月 1 日（月）までにご投函くださいますよう、お願いいたします。

女性 の 就 業 ニ ー ズ 調 査

報 告 書

平 成 26 年 度

平 成 27 年 1 月 発 行

発 行 横浜市市民局男女共同参画推進課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
電 話 045 (671) 2017 (直通)
F A X 045 (663) 3431
調査担当 株式会社吉武都市総合研究所
